

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター 病院 業績集 2022

The Journal of Okinawa Rehabilitation Center Hospital
Vol.10

2021年4月～2022年3月



TAPiC

TAPiC の理念

Total

総合性

患者さんを心と体、社会性という総合的な存在として捉える総合医療

Academic

探求性

未踏の分野を目指し研究する専門家集団

Popular

患者の立場

原点は病む心への援助

International

国際性

視界をアジア・世界に向ける

Centurial

21世紀にふさわしい

新世紀の医療の担い手



目 次

巻頭言	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	
	副院長 医師 富盛宏	1
タピック関連企画の講演会・講習会		2
院外講演・講義		2
院内及び関連施設での理事長講話		6
学会発表		6
座長		8
学会、研究会の査読		8
院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会		8
イーストタピック研究大会 2021		11
派遣事業		12
その他の業績		14
ホールカンファレンス		15
小論文		18
院内医療統計		27
メディア関連記事（医療医学・観光・その他）		31
年表（2021 年・令和 3 年）		48
タピックグループ一覧		49
編集後記	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院	
	教育研修局 作業療法士 マネージャー 和宇慶亮士	53

巻頭言

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

副院長 富盛 宏

2020 年の初頭から全世界的に猛威を振るう新型コロナウイルスの出現は、世界のさまざまなものを変えました。我々を取り巻く環境が大きく変化するとともに、医学的な課題も日々新たになり、それらに対するわれわれの認識も変化しています。

オンラインでの交流、対人接触の制限によるコミュニケーションの質の変化、新型コロナウイルス感染症に対応する医療スタッフのメンタルヘルス、社会を覆う全般的な不安など思いつくだけでも多くの事象があります。

医療の取り巻く環境の変化があり、事態は大変複雑になっており、社会・経済活動が制限されています。一方で、その間にオンラインを用いたコミュニケーションが一気に広がり、社会に大きな変化がもたらされました。

その中で開催された第 25 回イーストタピック研究大会 2022 のテーマは「仲間とともに成長し続ける組織 The Learning TAPIC Organization を目指そう！」となりました。その中で大田昇蔵講氏の「エンゲージメントの向上による組織・個人の相互が成長する組織づくり」、仲西副院長の「イーストタピック医療・介護部門の取り組み」「沖縄リハビリテーションセンター病院のミッション」、垣花副院長の「看護・介護の目標、研修体制」の特別講演、一般演題発表を拝聴し、新型コロナウイルス感染症のもたらした副産物と言えるかもしれないオンラインやハイブリッドでの開催を通して、タピックグループの更なる発展、進化に貢献できると思います。

上述した研究大会、そして「業績集 2022」を通じて学んだ一番大きな気づきは、教育・医療・福祉・家族が、そもそも誰のために、そして何のために存在するのかという問いを立てることが重要であることです。そのため今行っている活動が正しいのかと不安になることがあります。しかし医療の最上位目標は「病気の治癒」ではなく、病気や障害があっても、人がその人らしく幸せに生きていけることだと思います。変わりゆく時代の中では、正しさや正解も流動的。可変的な常識に縛られるのではなく、普遍的で本質的な存在意義に対する適切な問いを立てられることが、他人の意見や常識に翻弄されることなく、激動の時代を生きていくために必要になるかもしれません。

沖縄リハビリテーションセンター病院が目指す 7 つのリハビリテーションと新しい精神科医療に向け、前進し、一陽来復となることを期待します。

講演会・講習会等

タピック関連企画の講演会・講習会

院外講演・講義

院内及び関連施設での理事長講話

学会発表

座長

学会、研究会の査読

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

イーストタピック研究大会 2021

派遣事業

その他の業績

ホールカンファレンス

タピック関連企画の講演会・講習会

1. 沖縄県失語症セミナー

テーマ：失語症に対する認知神経心理学的アプローチ -日本語の特性を踏まえて-

講師：武蔵野大学人間科学部人間科学科教授 言語聴覚士 小嶋 知幸氏

日時：2021 年 10 月 09 日

会場：オンライン研修

主催：沖縄県

共催：一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会

沖縄県高次脳機能障害支援拠点機関 医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

2. 沖縄県高次脳機能障害研修会

テーマ：失語症者に対する自動車運転再開リハビリテーション

講師：医療法人愛広会 新潟リハビリテーション病院 言語聴覚士 佐藤 卓也氏

日時：2021 年 11 月 20 日

会場：オンライン研修

主催：沖縄県

共催：一般社団法人 沖縄県指定自動車学校協会

一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会

一般社団法人 沖縄県作業療法士会 沖縄の移動を考える作業療法委員会

沖縄県高次脳機能障害支援拠点機関 医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

院外講演・院外講義

1. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

講演名：取り戻そう！健康長寿おきなわ！『みんなでヘルスアクション！』健康×SDGs×行政・企業・学生・お笑い・音楽

テーマ：健康×SDGs×行政・企業・学生・お笑い・音楽

日時：2022 年 3 月 12 日

場所：サンエー浦添西海岸パルコシティ

主催：沖縄県

協力：名桜大学健康・長寿サポートセンター、名桜大学ヘルスサポート、沖縄県栄養士会

2. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）

講義名：離島・沖縄ブロック 目標管理研修

日時：2021 年 10 月 9 日

場所：中部徳州会病院

主催：中部徳州会病院 離島・沖縄ブロック看護部門

3. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学理論と心理的支援（全 15 回）

日時：2021 年 4 月～2021 年 8 月

主催・場所：琉球リハビリテーション学院 社会福祉学科

4. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学理論と心理的支援（レポート指導・添削）

日時：2021年6月6日

主催・場所：ソーシャルワーク専門学校 社会福祉士一般養成課程（通信）

5. 氏名：山城 亮輔（公認心理師）

講義名：心理学理論と心理的支援（全15回）

日時：2021年9月～2022年2月

主催・場所：沖縄統合医療学院 社会福祉学科

6. 氏名：仲里 沙希子（公認心理師）

講義名：キャリア心理学入門

日時：2022年1月27日

主催・場所：沖縄国際大学 総合福祉学部 人間福祉学科 心理カウンセリング専攻

7. 氏名：比嘉 鮎子（管理栄養士）

講義名：沖縄市一般介護予防事業「高齢者元気教室」～ぬちぐすいをずっと～

日時：2021年7月15日

場所：ペアーレ沖縄

主催：沖縄市

8. 氏名：比嘉 鮎子（管理栄養士）

講義名：沖縄市一般介護予防事業「高齢者元気教室」～ぬちぐすいをずっと～

日時：2021年11月25日

場所：ペアーレ沖縄

主催：沖縄市

9. 氏名：安慶名 誠（看護師）

講義名：「リハビリテーション看護論」

日時：2021年7月6日

主催・場所：名桜大学

10. 氏名：大城 真悟（介護福祉士）

講義名：沖縄県認知症介護実践者研修

「認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法」「自施設における実習の課題設定」「自施設自習評価」

日時：第2回 2021年9月14日・9月28日・11月2日

第3回 2021年11月8日・11月24日・12月27日

場所：いちゅい具志川じんぶん館（第2回・第3回）

主催：沖縄県認知症介護実践者研修

11. 氏名：大城 真悟（介護福祉士）

講義名：沖縄県認知症介護実践リーダー研修

「認知症介護実践リーダー研修の理解」

日時：第1回 2021年1月11日

場所：沖縄産業支援センター

主催：沖縄県認知症介護実践リーダー研修

12. 氏名：多和田 裕太（作業療法士）

講義名：沖縄リハビリテーション福祉学院学生対象 WEB 施設見学会「精神科病棟と作業療法」

日時：2021年9月15日

場所：オンライン講義

主催：沖縄リハビリテーション福祉学院

13. 氏名：平山 陽介（作業療法士）

講義名：沖縄リハビリテーション福祉学院学生対象 WEB 施設見学会「回復期病棟と作業療法」

日時：2021年10月19日

場所：オンライン講義

主催：沖縄リハビリテーション福祉学院

14. 氏名：安里 優介（作業療法士）

講義名：沖縄リハビリテーション福祉学院学生対象 WEB 施設見学会「訪問リハビリと作業療法」

日時：2021年11月16日

場所：オンライン講義

主催：沖縄リハビリテーション福祉学院

15. 氏名：杉浦 彩乃（作業療法士）

講義名：沖縄リハビリテーション福祉学院学生対象 WEB 施設見学会「精神科デイケアと作業療法」

日時：2021年11月16日

場所：オンライン講義

主催：沖縄リハビリテーション福祉学院

16. 氏名：杉田 未来（看護師）

講義名：基礎看護学技術論2（運動、休息、睡眠の援助技術）（看護学科1年 A・Bクラス）

日時：2021年6月8・14日

場所：北部看護学校

主催：北部看護学校

17. 氏名：大城 将平（医療ソーシャルワーカー）

講義名：沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 初任者研修会 「チーム医療における MSW の役割～なぜチーム（多職種協同）が必要か、その中で MSW の役割を学ぶ～」

日時：2021年11月14日

場所：WEB

主催：一般社団法人沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

18. 氏名：宮城 哲哉（作業療法士）

講義名：精神看護学「精神障害とリハビリテーション」

日時：2022 年 1 月 7 日

場所：琉球大学医学部保健学科

主催：琉球大学医学部保健学科

19. 氏名：照喜名 重寿（ケアマネジャー）

講義名：介護支援専門員更新 専門研修Ⅱ「社会資源の活用について」

日時：2021 年 7 月 6 日

場所：WEB

主催：沖縄県

20. 氏名：照喜名 重寿（ケアマネジャー）

講義名：令和 2 年度「介護の日」在宅介護シンポジウム 助言者

日時：2021 年 11 月 22 日

場所：沖縄県社会福祉センター

主催：沖縄県 沖縄県社会福祉協議会（介護実習・普及センター）

21. 氏名：照喜名 重寿（ケアマネジャー）

講義名：地域ケア会議と協議体の関連性について

日時：2022 年 3 月 10 日

場所：沖縄県社会福祉センター

主催：沖縄県社会福祉センター

22. 氏名：三好 晋爾（医師）

講義名：病態生理学Ⅵ 運動器疾患

日時：2021 年 4 月 8 日

主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

23. 氏名：三好 晋爾（医師）

講義名：病態生理学Ⅵ 運動器疾患

日時：2021 年 4 月 22 日

主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

24. 氏名：三好 晋爾（医師）

講義名：病態生理学Ⅵ 運動器疾患

日時：2021 年 6 月 10 日

主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

25. 氏名：三好 晋爾（医師）
講義名：病態生理学Ⅵ 運動器疾患
日時：2021 年 6 月 24 日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
26. 氏名：平良 伸一郎（医師）
講義名：病態生理学Ⅱ 代謝疾患
日時：2021 年 10 月 8 日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
27. 氏名：平良 伸一郎（医師）
講義名：病態生理学Ⅱ 代謝疾患
日時：2021 年 10 月 22 日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
28. 氏名：平良 伸一郎（医師）
講義名：病態生理学Ⅱ 代謝疾患
日時：2021 年 11 月 12 日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
29. 氏名：平良 伸一郎（医師）
講義名：病態生理学Ⅱ 代謝疾患
日時：2021 年 11 月 26 日
主催・場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校
30. 氏名：長濱 一史（医師）
講義名：循環器系
日時：2021 年 12 月 17 日
主催・場所：琉球大学 医学部

院内及び関連施設での理事長講話

1. 氏名：理事長 宮里 好一
テーマ：タピックちきゅう保育園開園 3 周年記念講演
日時：2021 年 9 月 11 日
主催・場所：タピックちきゅう保育園

学会発表

学会名：回復期リハビリテーション病棟協会 第 39 回 研究大会 in 東京
日時：2022 年 2 月 4 日～5 日
会場：グランドニッコー東京 台場及び WEB

1. 発表者：和宇慶 亮士（作業療法士）
共同演者：栗林 環（医師）、垣花 美智江（看護師）
演題名：入院ホールスタッフの目標管理とスキルの傾向
2. 発表者：榮野川 初音（言語聴覚士）
共同演者：平安座 和裕（作業療法士）、喜屋原 樹（理学療法士）、東川上 由紀（看護師）、桃原 織穂（言語聴覚士）、我謝 翼（言語聴覚士）、比嘉 淳（医師）
演題名：短時間の職場復帰に至った重度失語症の一症例
3. 発表者：兼城 早希（理学療法士）
共同演者：辺土名 健一（理学療法士）、久田 友昭（理学療法士）、大城 史子（医師）
演題名：退院後電話調査の取り組みについて ～自宅退院した患者の生活を知る～

学会名：リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021

日時：2021 年 11 月 18 日～19 日

会場：ANA クラウンプラザホテル神戸及び WEB

4. 発表者：奥田 しのぶ（介護福祉士）
共同演者：西平 利美子（介護福祉士）、志慶眞 裕也（介護福祉士）、安村 勝也（作業療法士）、武村 奈美（理学療法士）、栗林 環（医師）
演題名：認知症を持つ人の評価ツール「プール活動レベル(PAL)」を用いた個別支援
～重度認知症の 2 症例を通して～
5. 発表者：宮里 由乃（理学療法士）
共同演者：高宮城 あずさ（理学療法士）、栗林 環（医師）
演題名：市の一般介護予防事業におけるグループ内協働の取り組み～運動習慣の定着を目指して～

学会名：第 28 回沖縄県介護老人保健施設大会 WEB2021

日時：2022 年 3 月 21 日～28 日

会場：WEB 開催

6. 発表者：幸喜 匡弘（介護福祉士）
共同演者：野田 聖乃（介護福祉士）、足立 みどり（介護福祉士）、平良 伸一郎（副施設長 医師）
演題名：コロナ禍における施設生活の工夫 ～余暇活動で笑顔に～

学会名：第 22 回沖縄県理学療法学術大会

日時：2022 年 2 月 12 日

会場：沖縄産業支援センター（オンライン開催）

7. 発表者：仲村 祐司（理学療法士）
共同演者：宮里 由乃（理学療法士）、武村 奈美（理学療法士）、栗林 環（医師）
演題名：通所リハ利用の歩行自立者の転倒有無の特徴

学会名：第 36 回 沖縄県看護協会 看護研究学会学術集会

日時：2022 年 2 月 26 日

会場：WEB

8. 発表者：斎藤 真美（看護師）

共同演者：金城 ユリ子（看護師）

演題名：高次機能障害のある患者の内服薬・インスリン注射の自己管理に向けた退院支援

座長

1. 氏名：宮城 哲哉（作業療法士）

学会名：リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫 2021

日時：2021 年 11 月 18・19 日

会場：ANA クラウンプラザホテル神戸（オンライン参加）

担当：一般演題、ジャンル・テーマ：チームアプローチ

学会、研究会の査読

1. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）

学会名：第 22 回沖縄県理学療法学会大会

日時：2022 年 2 月 12 日

会場：沖縄産業支援センター（オンライン開催）

院内研修会・勉強会・研究大会・委員会報告会

1. 「新人教育プログラム2021」（講義及び実技61項目）

日時：2021年4月1日～21日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館6階及びWEB

参加者：48名

2. 「新人研修（回復期リハビリテーション病棟協会主催）（WEB）」

日時：2021年4月9日

場所：WEB

3. 「第24回 イーストタピック研究大会2021」

テーマ：タピック総合リハビリテーション医療センターの新たな創業期を迎えて

開催日：2021 年 6 月 5 日

場所：オンデマンド配信

4. 「リハビリテーション栄養と川崎市での地域リハビリテーション（日本リハ病院施設協会主催）（WEB）」

日時：2021年7月12日

場所：WEB

5. 「褥瘡対策委員会 年間報告会2021」

日時：2021年8月12日

内容：令和2年度褥瘡状況の確認

6. 「シーティング勉強会」

日時：2021年8月18日

内容：車いす駆動の種類、回復期での車いす駆動開始時期、下肢駆動に適した車いすセッティングについて

7. 「レギュラー研修2021」

テーマ：あなたの成長とタピックの進化

日時：2021年9月4日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象者：31名

8. 「新入職中期研修2021」

テーマ：自身の成長を認識し、仲間と共に歩もう！！

日時：2021年9月18日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象者：41名

9. 「リスクマネジメント研修会（回復期リハビリテーション病棟協会主催）（WEB）」

日時：2021年10月1日

場所：WEB

10. 「中途入職者研修2021」

テーマ：個性を大事に～タピックに活かそう～

日時：2021年10月16日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象：30名

11. 「社会人マナー研修2021」

日時：2021年10月30日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

講師：ユインチホテル南城 サポートチーム・戦略人事 高橋 俊博 課長

対象：50名

12. 「医療安全委員会 院内研修会2021」

日時：2021年11月3日

内容：院内医療安全年度報告の確認及びe-ラーニング「基礎から学ぼう医療安全」、「多職種で取り組む転倒・転落、ヒヤリ・ハット防止」を視聴

13. 「中堅研修2021」

テーマ：「私のキャリアデザインを描く」

日時：2021年11月27日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象者：21名

14. 「シーティング勉強会」

日時：2021年11月17日

内容：上肢及び下肢駆動における車いすセッティングとメカニズムについて

15. 「リーダー研修2021」

テーマ：「自身の部署をさらに良くするために必要なこと」

日時：2022年1月29日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象者：42名

16. 「倫理的課題2021」

日時：2022年1月31日

内容：e-ラーニング「臨床倫理入門」の視聴のうえ、各職員の倫理的事例について体験談なども踏まえ報告（159事例提出あり）

17. 「シーティング勉強会」

日時：2022年2月10日

内容：退院時の車いす機種選定、アジャスター02クッションについて

18. 「看護・介護ケア実践研究会2020」

テーマ：「チャレンジMOREチーム」

日時：2022年2月17日

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 新館6階講堂

19. 「マネジメント研修2021」

テーマ：「マネジメントによる課題解決」

日時：2022年2月19日

場所：各院内サテライト会場（WEB）

対象者：29名

20. 「感染対策委員会 年間報告会2021」

日時：2022年2月28日

内容：令和2年度抗菌薬使用状況、令和2年度検査総括、手指衛生講義資料の確認

21. 「病院・施設がハラスメント対策に どう取り組むか（日本リハ病院施設協会主催）（WEB）」

日時：2022年3月1日

場所：WEB

22. 医事課勉強会 月 1 回 参加者：20 名程度

23. 精神 OT 勉強会：毎月 1 回

24. 沖縄市地域包括支援センター西部南 ケアマネジメント勉強会：毎週 1 回

イーストタピック研究大会 2021

テーマ：タピック総合リハビリテーション医療センターの新たな創業期を迎えて

開催日：2021 年 6 月 5 日

開催場所：オンデマンド配信（事前録画）※コロナ感染対策のため

大会長：宮里 好一（タピック代表）

実行委員長：比嘉 丈矢（沖縄リハビリテーションセンター病院 医師）

一般演題：

- ・ 演題 1. コロナ禍における施設生活の工夫～余暇活動で笑顔に～
発表者：介護老人保健施設 亀の里 幸喜 匡弘（介護福祉士）
- ・ 演題 2. コロナ感染（COVID-19）発生事例を経験して
発表者：新館 4 階メディカルホールちゅうみ 金城 ユリ子（看護師）
- ・ 演題 3. (両)松葉杖歩行訓練の工夫～ペルテス病 6 歳男児の一例～
発表者：メディカルホールひんぷん 外来リハビリテーション課 上原 寛至（理学療法士）
- ・ 演題 4. 短時間勤務からの職場復帰に至った重度失語症の一症例
発表者：新館 3 階メディカルホールゆいんち 榮野川 初音（言語聴覚士）
- ・ 演題 5. 沖縄市一般介護予防事業におけるグループ内協働の取り組み～運動習慣の定着を目指して～
発表者：沖縄百歳堂デイケアセンター 宮里 由乃（理学療法士）
- ・ 演題 6. 認知症をもつ人の評価ツール「プール活動レベル(PAL)」を用いた個別支援～重度認知症の 2 症例を通して～
発表者：デイサービスあわせ 奥田 しのぶ（介護福祉士）
- ・ 演題 7. 繰り返し入所サービスを利用して、在宅生活を 10 年間継続した事例を振り返る
発表者：介護老人保健施設 亀の里 島本 りか（看護師）
- ・ 演題 8. 訪問リハビリテーションの役割！！～退院後も伸びしろを見逃さない！～
発表者：訪問リハビリテーション室 花城 夏希（理学療法士）
- ・ 演題 9. 数字で見る当院 2020 年度データ～新型コロナウイルス感染症流行及び病院統合の影響～
発表者：管理部 医事課 花城 瑠奈（診療情報管理士）
- ・ 演題 10. 自動車運転再開支援者の退院後追跡調査（2019 年度）
発表者：メディカルホールひんぷん 外来リハビリテーション課 桃原 織穂（言語聴覚士）
- ・ 演題 11. 退院後電話調査の取り組みについて～自宅退院した患者の生活を知る～
発表者：新館 3 階メディカルホールゆいんち 兼城 早希（理学療法士）
- ・ 演題 12. 精神科デイケア利用者満足度調査～「居場所」の意味～
発表者：精神科デイケア・ナイトケア 宮城 哲哉（作業療法士）
- ・ 演題 13. 自助具使用によって食事動作が自立した症例～ポータブルスプリングバランサーの工夫～
発表者：新館 5 階メディカルホールていーだ 長田 元樹（作業療法士）
- ・ 演題 14. 「もっと食べやすくするためには」～食事へのリハ介入、介護老人保健施設での取り組み～

発表者：介護老人保健施設 亀の里 盛小根 康（理学療法士）

- ・ 演題 15. 長期不穏状態にある患者への看護～放尿、放便、脱衣行為へのアプローチ～

発表者：本館 5 階メディカルホールなかゆくい 仲眞 隼人（看護師）

- ・ 演題 16. 紙面による人工膝関節全置換術の術後プロトコールパス導入の効果

発表者：新館 2 階メディカルホールはいさい 上里 勇磨（理学療法士）

派遣事業

1. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）、高宮城 あずさ（理学療法士）、照屋 修平（理学療法士）、我喜屋 利枝（看護師）、當山 恵美（看護師）、比嘉 鮎子（管理栄養士）、當山 正裕（言語聴覚士）、友寄 隆太（作業療法士）

事業名：沖縄市一般介護予防事業（高齢者元気教室 第 2 クール・第 4 クール）

日時：2021 年 6 月 3 日～9 月 9 日、2021 年 10 月 7 日～2022 年 1 月 13 日

場所：ペアーレ沖縄・タピック

2. 氏名：宮里 由乃（理学療法士）、富山 郁美（理学療法士）、高宮城 あずさ（理学療法士）、花城 夏希（理学療法士）仲村 祐司（理学療法士）

事業名：北中城村短期集中予防サービス

日時：2021 年 4 月～2022 年 3 月 毎週水曜日（14：00～16：00）・金曜日（10：00～12：00）

場所：北中城村総合社会福祉センター

3. 氏名：富盛 宏（医師）

内容：令和 3 年度精神科病院実地指導 精神保健指定医派遣

日時：2021 年 10 月 26 日

主催：沖縄県中部保健所

場所：沖縄中央病院

4. 氏名：奥山 久仁男（医師）

内容：令和 3 年度沖縄県高等学校総合体育大会ボクシング競技会

日時：2021 年 5 月 30 日

主催：沖縄県高等学校体育連盟

場所：沖縄水産高校 武道場

5. 氏名：奥山 久仁男（医師）

内容：令和 3 年度沖縄県高等学校新人体育大会ボクシング競技会

日時：2021 年 10 月 31 日

主催：沖縄県高等学校体育連盟

場所：沖縄水産高等学校 武道場

6. 氏名：奥山 久仁男（医師）

内容：第 10 回沖縄県アンダージュニアボクシング選考会

日時：2021 年 12 月 12 日

主催：沖縄県ボクシング連盟

場所：奥武山ボクシング会館

7. 氏名：大城 史子（医師）

内容：第 31 回沖縄県学生空手道選手権大会

日時：2021 年 4 月 29 日

主催：沖縄地区学生空手道連盟

場所：沖縄空手会館

8. 氏名：大城 史子（医師）

内容：令和 3 年度沖縄県高等学校総合体育大会空手道競技

日時：2021 年 5 月 30 日～31 日

主催：沖縄県高等学校体育連盟

場所：沖縄空手会館

9. 氏名：大城 史子（医師）

内容：令和 3 年度沖縄県高等学校新人体育大会空手道競技

日時：2021 年 10 月 10 日～11 日

主催：沖縄県高等学校体育連盟

場所：沖縄空手会館

10. 氏名：大城 史子（医師）

内容：令和 3 年度第 41 回全九州高校空手道新人大会

日時：2021 年 11 月 19 日～21 日

主催：公益財団法人全日本空手道連盟 九州協議会

場所：沖縄県立武道館

11. 氏名：大城 史子（医師）

内容：第 14 回うるま若獅子空手道交流大会

日時：2021 年 12 月 18 日

主催：うるま空手スクール

場所：うるま市総合体育館

12. 氏名：大城 史子（医師）

内容：令和 3 年度沖縄県高等学校空手道春季大会

日時：2022 年 2 月 26 日

主催：沖縄県高体連空手道専門部

場所：沖縄県立前原高等学校

13. 氏名：大城 史子（医師）

内容：第 13 回豊見城市空手道大会

日時：2022 年 2 月 27 日

主催：豊見城体育協会 豊見城市空手道連盟

場所：豊見城市民体育館 メインアリーナ

14. 氏名：大城 史子（医師）、三好 晋爾（医師）、森本 忍（看護師）、仲村 祐司（理学療法士）、
嘉数 功平（作業療法士）、久保田 和貴（理学療法士）

内容：第35回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント

日時：2022年3月3日～6日

主催：ダイキン工業株式会社、琉球放送株式会社

場所：琉球ゴルフ倶楽部

その他の業績

1. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

沖縄県高等学校野球連盟より感謝状

2. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

日時：2021年5月1日

内容：2020東京オリンピック聖火リレーに岡市卓也様の伴走者として参加

3. 氏名：宮里 好一（理事長・院長・医師）

日時：2021年8月14日

内容：2020東京パラリンピック沖縄市採火式へ沖縄県障がい者スポーツ協会理事長として参加

4. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）

内容：沖縄の看護実践力を育む研究会主催 2021年度研修 企画・運営

- ・課題解決思考と実践

- ・理論を実践に繋ぐ新人教育

5. 氏名：垣花 美智江（副院長・看護師）

内容：医療法人杏月会 研究倫理審査委員

6. 氏名：藤山二郎（医師）

内容：学校健診

日時：2021年7月13日

場所：美東中学校

7. 氏名：藤山二郎（医師）

内容：学校健診

日時：2021年10月19日

場所：美東中学校

8. 氏名：平良伸一郎（医師）

内容：学校健診

日時：2021 年 10 月 21 日

場所：美東中学校

9. 氏名：長濱一史（医師）

内容：学校健診

日時：2021 年 11 月 9 日

場所：美東中学校

10. 氏名：仲宗根力（医師）

内容：学校健診

日時：2021 年 11 月 11 日

場所：美東中学校

11. 沖縄市地域包括支援センター西部南 沖縄市内障害支援事業所との合同勉強会 3 回

12. 沖縄市地域包括支援センター西部南 沖縄市自治会長協議会勉強会：年 3 回

ホールカンファレンス

1. **開催ホール：新館 2 階メディカルホールはいさい**

発表者：稲葉 圭吾（看護師）

共同演者：玉城 優志（理学療法士）、永吉 翼（作業療法士）、高安 竜三（介護福祉士）、
中村 愛美野（管理栄養士）、城間 隆史（医師）

テーマ：「食事摂取拒否のクライアントに対する倫理的課題」

日時：2021 年 6 月 17 日

目的：食事摂取拒否のクライアントに対する対応と倫理的ジレンマについて全キャストで検討する。

概要：90 歳代、女性。診断名は、右大腿骨転子部骨折術後にて入院中。

入院時より ADL 全介助で食思不良あり（摂取量 0～3 割）。入院前の施設では、摂取量 6～8 割であったが、今回の受傷を機に食事量が低下していた。徐々に、栄養状態の低下がみられ、今後、脱水も懸念されたことから、一時的に経管栄養を開始する運びとなったが、本人が望む治療・ケアでないことにジレンマを感じた。その後、取り組みにより経口摂取による摂取量が若干、増加することができたが今回のケースを通して、高齢者の食事拒否に対する対応について、拒否をする原因を考察し、尊厳を守りながら治療・ケアを提供することの重要性をキャスト間で共有した。

2. **開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうみ**

発表者：宮城 俊恒（作業療法士）

テーマ：回復期 9 ヶ月の入院期間を要して、排泄自立となった 40 歳代男性への取り組み

日時：2021 年 10 月 8 日

目的：入院初期にスタッフへの暴力や暴言があったクライアントへの関わりと、機能性尿失禁に対しての取り組みをホール内で共有。

概要：入院前から適応障害がある 40 歳代男性が、くも膜下出血で入院。覚醒にムラがあり注意力や抑制の低下が著明。入院から 2 週間ほど経ってから、次第に介助拒否やスタッフへの暴言暴力等が多くなる。転倒も頻回。排尿は、端座位も不可で、オムツいじり等の不潔行為が見られた。特に夜間は尿量も多くベッドシーツまで及ぶ失禁が続いた。

関わるスタッフを限定的にし、毎朝軒下カンファレンスを実施し、対応方法やオムツの当て方、排尿失敗した際の対処方法の統一を図った。

退院時には穏やかに過ごされたが、担当外のスタッフとの関わりは距離があった。日中の排泄はトイレで自立。夜間帯は排尿の失敗あるも後処理の自立まで至り、グループホームへ退院となった。

3. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：中里 貴幸（看護師）

テーマ：胸椎黄色靱帯骨化症術後患者の ADL 自立に向けて

日時：2021 年 10 月 22 日

目的：情報共有することでクライアントに必要なケアを立案し、早期より統一したケア介入を行っていく

概要：胸椎黄色靱帯骨化症術後に対麻痺となった 30 代の症例を受け持った。

自宅退院に向け歩行、排便処置・汚染時の処理、持ち込みの褥瘡が悪化していたことが課題となった。退院時期を延長し、歩行目標は達成したものの、排便時の坐薬挿入や汚染時の処理方法について対応の統一が図れず看護職員間で何度かカンファレンスをもった。結果、退院時期間近になり褥瘡の改善、坐薬挿入が自己にて可能となった。ケア者間の対応統一は早期に本人の自立促進に繋げることを再確認することができた。

4. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：小濱 正平（言語聴覚士）

テーマ：先行期不良により経口摂取が定着しづらい症例

日時：2021 年 11 月 12 日

目的：退院した事例について経口摂取に対する介入方法の振り返りと倫理的課題について検討する

概要：80 代男性。被殻出血で入院。覚醒低下、認知症がありコミュニケーション困難。指示理解不可。独語、ジャーゴン様発話あり。唾液嚥下が可能で、明らかな咽頭貯留なし。口腔内に食事が入れば嚥下反射まで可能。3 食経口摂取を目標に介入していたが、先行期不良にて摂取量安定せず。また口腔内ため込み、吐き出し行為等があるクライアントに対して「食事介助方法」「福祉用具の使用の効果」「食べたい意志がない方に対する食事介助は意志を尊重していない、尊厳を損なうことになるのか」「生活の質を踏まえた食事介助の意義とは何か。本人や介助者の負担やストレスを与えてまで食事をすすめるべきか」などについて議論することができた。

5. 開催ホール：新館 4 階メディカルホールちゅうらうみ

発表者：久保田 和貴（理学療法士）

テーマ：初期の目標設定を下方修正した症例 ～退院先の変更に伴う病棟連携強化～

日時：2021 年 11 月 26 日

目的：初期の目標設定を下方修正し、新規の退院先の住環境に合わせた環境調整や病棟連携を強化した症例を通し、コロナ禍での家族支援方法を模索する。

概要：高次脳機能障害や重度麻痺により、機能・能力の改善に難渋し、自宅環境と退院時に予測される能力に差が生じ、転帰先を変更した症例。家屋調査を実施し、目標を下方修正し再設定し、入院中から新規の住宅環境に類似した環境調整・生活に必要なと予想される動作練習を反復し、自主トレ・精神的なサポートを病棟全体で行った。修正した目標をクリアし、生活に必要な動作を獲得した結果、新規の住宅へと退院を迎えた。

6. 開催ホール：新館4階メディカルホールちゅうみ

発表者：名波 唯奈（看護師）

共同演者：運天 勝樹（作業療法士）

テーマ：徘徊や不潔行為がある認知症患者対応

日時：2022年3月17日

目的：問題行動のある患者対応を多方面からアプローチを行った対応について振り返る

概要：腰椎圧迫骨折により安静指示がでたものの、認知症により徘徊がみられ安静が守れずにいた。

本人が好きな塗絵など提供しながら、少しでも安静指示が守れるようチームで調整をした。安静解除後、ADL向上とともに行動範囲が拡大し、問題行動がみられるようになった。排泄後に拭き取った紙をカバンや衣装棚に入れる行為や、他患者へ飴や金銭を配るといった行動もあり常時見守りの状態だった。クライアントと他患者の安全を守るため、問題行動ばかりに目を向け排除することばかりに医療者は目を向けていた。他職種とカンファレンスを行う事で、本人の行動の意味や、これまでの生活背景などを確認しクライアントの理解につなげ、飴に代わる物を医療者が一緒に準備してあげる工夫が必要だった事に気づかされ、今後同様なケース対応に活かしていけるようにしたい。

7. 開催ホール：新館5階メディカルホールていーだ

発表者：杉田 未来（看護師）、又吉 裕介（理学療法士）、城間 恵（作業療法士）、
小濱 紋乃（介護福祉士）、瑞慶山 美香（相談員）

共同演者：比嘉 丈也（医師）

テーマ：周辺症状がある症例への関わり方について

日時：2021年10月26日 参加者：40名

目的：認知症症状は多彩であり、またその人の習慣・考え方・生き方が多く反映されている。家族の協力を得ながらクライアントの気持ちに寄り添ったケアを心掛けしていく。また、多職種でチームアプローチしながらケア方法の知識・技術の幅を広げていく。

概要：自宅で転倒し左大腿骨部受傷、急性期病院にて手術後、当院へリハビリ目的にて入院される。

既往歴に認知症、統合失調症あり、自宅退院に向けて課題解決に取り組んだ。退院までの課題目標、実践は①移動手段の獲得→認知症・統合失調症のクライアントに対して移動手段の決定が難しい、継続性と安全性を優先に考えた②排泄動作の獲得→オムツの外しによる失禁が多くつなぎ使用の対策も試みたが継続が難しく日中の活動性を上げトイレ誘導し精神科医師とも相談しながら夜間の入眠を促した③疼痛コントロール→疼痛は残存しているが軽減している。痛みから離れる声かけも実践した④生活リズムの再構築→本人が苦痛に感じる事がない余暇活動を検討しクライアントに合った日中の活動方法を検討し実践した。

小論文

認知症をもつ人の評価ツール「プール活動レベル(PAL)」を用いた個別支援 ～重度認知症の2症例を通して～

奥田 しのぶ（介護福祉士）（デイサービスあわせ）

西平 利美子（介護福祉士）、志慶眞 裕也（介護福祉士）、安村 勝也（作業療法士）、
武村 奈美（理学療法士）、栗林 環（医師）



【はじめに】

これまで、認知機能低下を呈した利用者に対して、個々の認知レベルに合わせたケア、統一したケアが十分に行えていなかった。今回、法人 OT と協働し、認知症を持つ人の評価ツール「プール活動レベル(以下 PAL)」を用いた個別支援を実施し、利用者の症状改善が見られたため、ケアの実施内容について報告する。

【症例紹介】

症例 1：要介護 3 ADL 全介助。偏食あり、自力での摂取が出来ず全介助。

症例 2：要介護 3 ADL 全介助。重度難聴あり入浴、口腔ケア拒否強く介入方法に苦慮。

【方法】

実施期間は 12 か月間。PAL を用いて観察評価を実施、個別目標を設定しケアを行った。月 1 回 WAB を活用し症例の経過について多職種で検討した。その内容を事業所職員間で共有し、ケアの統一方法を図った。また、職員に PAL を取り入れたケアについてアンケートを実施した。

【結果】

症例 1 は PAL 導入前後共に反射レベル。食事の項目で反射レベル→探索レベルへ改善を認めた。また、職員や利用者とのコミュニケーションが増加し、笑顔も増えた。

症例 2 は導入前後共に感覚レベル。本人の快刺激を取り入れたことでケアへの拒否が減少し、笑顔も増えた。職員アンケートの結果は肯定的な意見が多かった。

【考察】

今回 PAL を用いて統一した評価を行い、個別目標を設定しケアを行ったことで、重度の認知症利用者の変化が見られた。安心して安全な快刺激を職員全体で周知し関わることが重要と考えられた。

<参考文献>

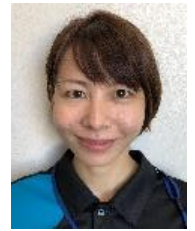
1)Jackie pool 原著：プール活動レベル 認知症をもつ人の活動評価から個別支援まで

2)秋本千佳 著：介護老人福祉施設の高齢者が感じる「自分らしさ」とケア職員が捉える「その人らしさ」

市の一般介護予防事業におけるグループ内協働の取り組み ～運動習慣の定着を目指して～

宮里 由乃（理学療法士）（沖縄百歳堂デイケアセンター）

高宮城 あずさ（理学療法士）、栗林 環（医師）



【はじめに】

当法人関連施設が受託した一般介護予防事業へ当院よりリハ、看護、栄養の専門職を派遣し、運動習慣の定着と社会参加の拡大を目標にプログラムを協働で実施したので報告する。

【対象と方法】

市内在住で要介護認定を受けていない 65 歳以上高齢者 34 名。方法は週に 1 回、約 2 時間、全 14 回を 1 クールとし、プログラム内容はバイタル測定、いきいき百歳体操等の運動、専門職による講話、地域サロン紹介、ボランティア募集案内等を実施。介護予防手帳を活用し運動習慣の確認、健康に関する相談を実施。初回時と最終時に体成分分析 inbody で体組成測定、運動機能評価、主観的健康感の評価を実施、前後比較検定を行った。

【結果】

34 名のうちデータ欠損を除く 32 名で前後比較した。体重や体組成に有意な変化はなかったが、歩行速度や下肢筋力、バランス能力、主観的健康感において有意な改善が認められた。ウォーキングや公民館での体操等の運動習慣定着 26 名、終了後の体操サークルやボランティア登録等の社会参加意向 22 名。

【考察】

コロナ禍の外出自粛で体力低下や社会参加機会減少があったが、自宅でも実践できる運動の指導や、地域サロンで実施されているいきいき百歳体操の実施、介護予防手帳活用により運動習慣の定着と主観的健康感の向上が図れた。また専門職からの講話や地域サロンの紹介を行うことで介護予防への関心が高められ、終了後の社会参加意欲に寄与できた。

＜参考文献＞

- 1) 新井秀典：フレイル診療ガイド 2018 年版
- 2) 中野聡子：介護予防教室参加者における運動の継続に関連する要因,理学療法学 第 42 巻第 6 号 511～518,2015
- 3) 重松良佑：スクエアステップを取り入れた運動教室に参加した高齢者がその後も自主的に運動を継続している理由,日本公衆衛生雑誌 第 58 巻第 1 号 22～29,2011



重錘バンドを使用し、いきいき百歳体操を実施

通所リハ利用の歩行自立者の転倒有無の特徴

仲村 祐司（理学療法士）（沖縄百歳堂デイケアセンター）

宮里 由乃（理学療法士）、武村 奈美（理学療法士）、栗林 環（医師）



【はじめに】

先行研究で転倒有無による身体機能の違いを検討した結果、下肢筋力が重要とわかり、敏捷性の評価を追加する運びとなった。目的は通所リハ歩行自立者において敏捷性を含む身体機能、認知機能の違いについて転倒に関連する特徴を検討することである。

【対象と方法】

対象は当通所リハの歩行自立者 47 名。運動機能評価の実施が困難、入院等による中断者は除外した。①5m 快適歩行速度(以下、5mCWS)②5 回立ち座りテスト(以下、SS-5)③Timed up and go test(以下、TUG)④坐位開閉テスト⑤長谷川式認知症スケール(以下、HDS-R)について測定実施。R2 年 12 月から半年間の自宅等での転倒を本人か家族へ聴取し、要支援・要介護者それぞれ転倒なし群(以下、NF 群)と転倒あり群(以下、F 群)の 4 群に分類。検定は一元配置分散分析または Kruskal-wallis を用いて解析した。

【説明と同意】

利用者へ説明を行い同意を得た。また、当院倫理審査委員会にて承認を得た。

【結果】

半年間の転倒者は 47 名のうち 18 名だった。支援 NF 群 11 名(女 11 名、平均年齢 84.0 ± 5.8 歳)、介護 NF 群 18 名(女 10 名、平均年齢 84.6 ± 6.1 歳)、支援 F 群 8 名(女 4 名、平均年齢 84.2 ± 9.4 歳)、介護 F 群 10 名(女 7 名、平均年齢 86.6 ± 7.0 歳)。①5mCWS (支援 NF 群 0.7 ± 0.2 m/s、介護 NF 群 0.58 ± 0.23 m/s、支援 F 群 0.51 ± 0.17 m/s、介護 F 群 0.63 ± 0.31 m/s)、②SS-5(支援 NF 群 12.7 ± 3.2 秒、介護 NF 群 11.8 ± 4.0 秒、支援 F 群 15.1 ± 8.3 秒、介護 F 群 15.4 ± 9.7 秒)、③TUG(支援 NF 群 15.6 ± 8.0 秒、介護 NF 群 17.7 ± 6.9 秒、支援 F 群 22.4 ± 9.0 秒、介護 F 群 21.2 ± 14.8 秒)、④坐位開閉テスト(支援 NF 群 10.9 ± 2.9 回、介護 NF 群 10.6 ± 2.8 回、支援 F 群 8.6 ± 3.3 回、介護 F 群 10.2 ± 4.6 回)、⑤HDS-R(支援 NF 群 21.8 ± 4.5 点、介護 NF 群 16.7 ± 6.9 点、支援 F 群 25.0 ± 4.0 点、介護 F 群 19.2 ± 8.6 点)。HDS-R の支援 F 群と介護 NF 群との間に有意差($p < 0.05$)があった。他項目で有意差はなかった。

【考察】

転倒に敏捷性が関連すると予測したが転倒有無に運動機能面の差は認められなかった。田口ら¹⁾は高齢者の転倒は運動機能低下に周辺環境の要因が加わり起こることがほとんどであると述べている。全群で平均値が転倒カットオフ値を下回っており、外的要因に適応できる身体機能が低下していると考ええる。支援 F 群では運動機能低下がありながら認知機能面は高く活動性が高い可能性があり転倒に至っていると考ええる。

【理学療法学研究としての意義】

要支援・要介護認定者においては転倒有無に関わらず身体機能は転倒カットオフ値より低下していることが多く、外的要因も考慮した転倒予防アプローチ及び継続的な身体機能評価が必要である。

<参考文献>

1) 島田裕之：高齢者理学療法学．2017 年 3 月．

老健施設におけるコロナ陽性者ゼロを目指して

比嘉 真由美（看護師）（介護老人保健施設 亀の里）

波田間 優美（看護師）、東江 若奈（看護師）、大城 真悟（介護福祉士）、平良 伸一郎（医師）



【はじめに】

令和2年2月14日に沖縄県で初めて新型コロナウイルス陽性者（以下感染者）が報告され、県内の感染者は令和3年11月22日時点で延べ5万304人が確認されており、うち397人が死亡している。

特に高齢者や糖尿病、慢性肺疾患、免疫不全などの基礎疾患のある方は重症化する傾向にあり、また、集団生活の場ではクラスターが起きやすいと言われている。当施設でも令和2年3月24日より感染防止対策に取り組んだ結果、感染者を出すことなく経過している。感染対策を徹底する事の重要性を実感できたのでここに報告する。

【目的】

感染者を出さないため職員全体がウイルスを持ち込まないような取り組み、施設全体として家族への協力依頼と感染対策の追加や工夫を行った対応を振り返り、これからの感染対策に活かす。

【方法】

1. 感染対策実施取り組み期間
令和2年3月～令和3年11月現在
2. 感染対策方法
 - ① 利用者・家族への感染防止対策への協力依頼
 - ② 施設内環境整備の強化
 - ③ 標準予防策の実施に加え、フェイスシールド、
 - ④ ゴーグルの装着
 - ⑤ ショートステイ利用基準の変更
 - ⑥ 外来受診を必要最低限とする



【結果】

令和3年11月までの21ヶ月間で職員は1名が感染したが、入所者・ショートステイの感染者は0名だった。

【考察】

三浦氏は「高齢者施設の特性として、高齢である利用者が常時マスクをすることは困難である。また、生活援助の場である施設では、密着するケアが多いことから職員が利用者に対してケアを提供する場合にはマスク着用に加えて、ゴーグルやフェイスシールドなどの目の保護を行うことが重要である。」と述べている。当施設でも認知機能低下者への感染予防が難しく対応に苦慮した。また職員の出勤時に体温測定の記事漏れや後追い調査（ケア介入者リスト）の記事漏れがあった。

沖縄県内で感染者が増加する中、職員に対して感染防止策の重要性を何度も説明し協力が不可欠であることに理解を得ることができた。職員の感染対策に関しての意識を高め、コロナ禍での感染防止対策の強化・実施ができたことが感染リスクの減少につながったと考える。

【まとめ】

新型コロナウイルス感染症は高齢者において重症化するリスクが高いとされており、施設内でのアウトブレイクを防ぐことが極めて重要である。そのためには多職種による感染防止の共通認識が大切である。職員は通常業務に加え、感染対策による身体的・精神的負担が懸念されるが、今後も多職種が一致団結しながら感染防止に努めたい。



<参考文献の記載方法>

1)三浦理恵子 発行年:2021年8月10日発行(メディカル出版):「指導研修に使える！最新版 ICT のための新型コロナウイルスパーフェクトマニュアル」P230

コロナ禍における施設生活の工夫～余暇活動で笑顔に～

幸喜 匡弘（介護福祉士）（介護老人保健施設 亀の里）

野田 聖乃（介護福祉士）、足立 みどり（介護福祉士）、仲松 善孝（介護福祉士）

大城 真悟（介護福祉士）、平良 伸一郎（医師）



【はじめに】

コロナ禍により面会や外出・余暇活動等、施設での生活が制限された事で、利用者のストレスが増大し、ふさがちな様子が見られた。そこで、感染対策を徹底し、余暇活動・毎月の行事を充実させる事で、コロナ禍においても利用者様の心を元気にし、施設生活での楽しみや喜びを感じて頂けることができたので報告する。

【対象と方法】

令和2年10月～現在に至る入所者

- ① 感染対策（3密を避ける・マスク着用・換気）
- ② 季節を感じられる装飾作成
- ③ 余暇活動の環境づくり（屋上散歩・脳トレ）
- ④ 毎月の行事立案
- ⑤ アンケート実施（利用者様24名）

【結果】

ソーシャルディスタンスをとれるようディルームにスペースを設け、余暇活動・毎月の行事を充実させた。徐々に利用者様のストレスが軽減され、笑顔が増えてきた。

アンケート調査では、「マスク着用は息苦しい」などの回答もあったが毎月の行事、余暇活動は楽しいという声が多くあった。

【考察】

コロナ禍で体を動かさず、何もしていない時間が続く事で、心身機能・認知機能低下に繋がる可能性がある。

新しい生活様式の下で余暇活動を充実させ、利用者様が楽しい施設生活を過ごせるようになり、笑顔が増えたと考えられる。

【まとめ】

コロナウイルス感染症の終息が不透明である施設生活の中で、余暇活動・毎月の行事を実施したことで利用者様が楽しい施設生活を過ごせている。今後も利用者様1人1人のニーズに寄り添い、個々に合わせた趣味（園芸・手工芸・娯楽）活動を充実させ、コロナ禍でも楽しい時間を増やし、より一層、「笑顔」にしていきたい。



入院ホールスタッフの目標管理とスキルの傾向

和宇慶 亮士（作業療法士）（教育研修局）

栗林 環（医師）、垣花 美智江（看護師）



【はじめに】

当院では組織目標と個人目標との紐づけ及び自己成長確認を目的に目標管理シートを2018年度に導入した。今回、当院入院ホールスタッフの目標管理とスキルの傾向について報告する。

【目標管理シートの概要】

組織目標及び部署目標、組織人と専門職の個人目標及びスキルチェック表である。スキルチェック表は 4 段階の自己評価を前期・後期に実施している。

【方法】

＜対象＞2020 年度の入院ホールの看護師（以下,Ns）、介護職（以下,CW）、理学療法士（以下,PT）、作業療法士（以下,OT）、言語聴覚士（以下,ST）。

＜内容＞個人目標達成度及びスキルチェック表の平均値（以下,スキル）、スキル成長度（後期－前期）を全体平均（以下,平均）及び職種別で比較した。またスキル及びスキル成長度を経験年数別（5 年ごと）で比較した。

【結果】

個人目標達成度は平均 58.5%、Ns52.8%、CW41.5%、PT66.7%、OT65.2%、ST66.3%。スキルは平均 2.3、Ns2.4、CW2.1、PT2.3、OT2.2、ST2.2。スキル成長度は平均 0.17、Ns0.15、CW0.10、PT0.22、OT0.20、ST0.17。

経験年数別のスキルは1～5 年目 1.9、6～10 年目 2.5、11～15 年目 2.8、16～20 年目 2.7、21～25 年目 2.4、26～30 年目 2.9、31 年目以上 2.5。スキル成長度は1～5 年目 0.20、6～10 年目 0.21、11～15 年目 0.13、16～20 年目 0.07、21～25 年目 0.12、26～30 年目 0.18、31 年目以上 0.21。

【考察】

個人目標達成度が低い要因として、目標設定が高いことや目標設定のプロセスの問題が考えられた。そのため、目標達成に向けての目標設定プロセスや目標面接時のサポートの強化が必要と示唆された。

経験年数別スキルは 16 年目以降の成長が緩やか、または停滞傾向、スキル成長度は 11～25 年目が低いことから、自立してできるステップから助言・教育できるステップ、また応用的・創造的な実践できるサポートの必要性が示唆された。

今後もクリニカルラダー、キャリアデザインのサポートを進めていく。

目標管理シート（抜粋）

2021年度 目標管理シート(看護師)			看護師			氏名	職種	看護師	所属	氏名	職種	看護師	所属	
氏名			実務経験年数			年目	組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル			
職 種			看護部			年目	組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル			
所 属			看護部			年目	組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル			
職 業（看護部）						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
イニシアチブの目標						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
エグゼクティブの目標						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
部門（専門職）の目標						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
組織人及び専門職のラダー定義						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
ステージ	組織人及び専門職のラダー定義					組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
V	スペンディヤ・マクダニール・ジュニア					リーダーシップ				リーダーシップ				
IV	リーダーシップ					リーダーシップ				リーダーシップ				
III	リーダーシップ					リーダーシップ				リーダーシップ				
II	リーダーシップ					リーダーシップ				リーダーシップ				
I	リーダーシップ					リーダーシップ				リーダーシップ				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）				専門職（看護師）のスキル				
キャリアステージ教育						組織人のスキル（ラダー）								

早期職場訪問により職場復帰課題へ取り組めた重度失語症の一症例

榮野川 初音（言語聴覚士）（新館3階メディカルホールゆいんち）

桃原 識穂（言語聴覚士）、我謝 翼（言語聴覚士）、比嘉 淳（医師）



【はじめに】

失語症者の社会復帰は、厳しい状況にあるのが現実である。今回、重度失語症者を担当し、ご本人の強い意志もあり、早期職場訪問により職場復帰課題へ取り組めた症例について報告する。

【症例紹介】

50代男性。頭部MRIにて左中大脳動脈領域のアテローム血栓性脳梗塞と診断され、病日33日目に当院へ入院。身体機能に麻痺はなく、独歩でADLは自立。神経心理学的所見は、失語症、注意障害、失行。仕事はスコーン製造・販売。キーパーソンは弟とパートナー。

【経過】

入院時、理解は単語レベルから低下。コミュニケーションはジャーゴン発話が中心であり、文字やジェスチャー、状況理解を併用し身の周りのやりとりは行っていた。認知関連行動アセスメント評価では26/30点（軽度）。訓練は言語理解・表出面を中心に実施。早期の退院希望や職場復帰の強い希望があり、入院から約1ヶ月後に職場訪問を実施。結果、遂行可能な仕事内容は掃除や商品陳列であることがわかった。しかし、材料の選定や分量の声かけは必要であり、注文の聞き取りが困難であった。訪問後は商品陳列課題を訓練に取り入れた。入院から2ヶ月後に退院し、外来リハビリへ引き継ぎ、退院から約3週間後、短時間勤務からの職場復帰に至った。

【考察】

今回、早期職場訪問により、できることや課題を見出すことができた。職場復帰できた要因について、ご本人の強い意志に加え、身体機能に麻痺がなく、高次脳機能障害が軽度であり、動作性の仕事内容が概ね可能であった。また、実場面を通して役割を見出すことができ、周囲と協力できたことが挙げられる。一方で、調理や接客などの言語性の多い仕事内容は失語症の影響により困難な状況であり、今後パートナーの協力や代償手段の活用が必要と思われた。

＜参考文献の記載方法＞

- 1)高次脳機能障害全国実態調査委員会. 高次脳機能障害全国実態調査報告. 高次脳機能研究. 2016年12月31日. 第36巻第4号 P24 - 34
- 2)廣瀬陽子. 医療機関における失語症者への就労支援とその可能性について. 110-113
- 3) 青林唯. 失語症者に対する連携就労支援の実態調査 106-109
- 4) 渡邊修. 宮野佐年. 大橋正洋. 久保義郎. 失語症者の復職について. リハビリテーション医学 vol.37 no.8 2000年8月. 517-522

退院後電話調査の取り組みについて～自宅退院した患者の生活を知る～

兼城 早希（理学療法士）（新館3階メディカルホールゆいんち）

辺土名 健一（理学療法士）、久田 友昭（理学療法士）、大城 史子（医師）



【はじめに】

令和 2 年度、当ホールの年間目標として「在宅生活や地域生活など退院後の具体的な生活イメージを共有した退院支援の実践」を挙げて取り組んできた。今回、自宅へ退院した患者様の退院後の生活状況を把握することを目的に電話調査を実施したので報告する。

【対象と方法】

令和 2 年 11 月～12 月に自宅へ退院した患者の内、本調査にご協力頂いた患者様 3 名。（内訳：70 歳代女性・脊髄梗塞、70 歳代女性・多発性脳腫瘍、60 歳代男性・塞栓性脳梗塞）。今回の調査用に当ホールで作成した「退院後生活調査票」を用いて電話で聞き取り調査を行った。退院 1 ヶ月後の FIM 運動項目、サービスの利用状況や外出頻度などの生活状況、ご家族の介護負担感を調査した。FIM 運動項目については退院時との比較を行った。

【結果】

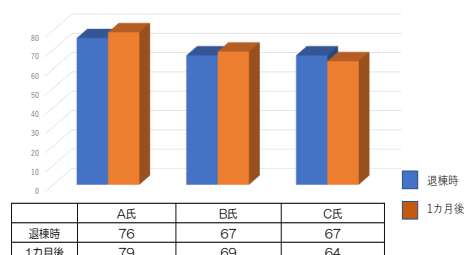
FIM 運動項目では 2 名が向上（トイレ動作や排泄動作）し、1 名が低下（食事や移乗動作）していた。生活状況に関しては 3 名共に退院時に調整したサービス利用を継続していた。介護負担感については、介護の難しさや依存の持続などの声が挙がっていたが、想定していた退院後の目標と大きく変わること無く自宅で過ごされていた。

【考察】

向上した 2 名のトイレ動作や排泄動作について、先行研究では生理的に自立したい項目である事、自宅という慣れた環境による精神的な安定に繋がっていると述べられている。また低下については、退院後依存的になることによる介助者の過剰な介護が原因になると挙げられ、今回低下した 1 名に対しても移乗動作と食事場面（食具の選定）で家族の過介助が見られた。退院前に本人、家族と自宅環境や動作確認を行い、入院中から実生活に近い環境調整や、リハビリテーションを行うことが改めて重要だと実感した。今後も入院期間中から退院後の生活をイメージし、本人・ご家族を含めたチームアプローチが必要であると考えられる。

＜結果＞

＜退院時と退院 1 ヶ月後の比較（FIM 合計点数）＞



▲退院時と退院 1 ヶ月後の比較

＜FIM運動項目別での比較＞



▲ FIM 運動項目別での比較

＜参考文献＞

- 1)筆頭著者名：芳野純 文献名．回復期リハビリテーション病棟患者の退院後日常生活活動変化の特徴と関連因子 発行年；2008 23(4)；495-499 ページ
- 2)筆頭著者名：西尾大祐 文献名．回復期リハビリテーション病棟から在宅復帰した高齢脳卒中患者の日常生活活動に影響を及ぼす因子 発行年；2014 29(5)；725-730 ページ

高次脳機能障害のある患者の内服薬・インスリン注射の自己管理に向けた退院支援

斎藤 真美（看護師）（新館4階メディカルホールちゅうらうみ）

金城 ユリ子（看護師）



【はじめに】

脳血管疾患による後遺症で、身体障害・高次脳機能障害を持ちながら療養生活を続けるために必要な事項の一つに、服薬コンプライアンスを良好に保つことがあげられている。そのため継続治療の必要な基礎疾患を有する患者は、入院中にその疾患管理に必要な知識と内服等の自己管理能力を獲得することが課題となる。

【対象と方法】

今回、基礎疾患に糖尿病を有し、左視床出血後のリハビリテーションを目的に入院してきた患者の自宅復帰を目標にインスリン・内服薬自己管理指導を行った。患者は、高次脳機能障害により注意障害と記憶障害の問題があった。この問題を多職種チームで連携し支援した結果、インスリン自己注射、1日の内服薬自己管理行動の獲得に至った。この一連の指導過程を振り返り、検討を行った。方法は、事例研究・データ収集方法・分析方法とした。

【結果】

A氏は日中臥床が目立ち、1日のスケジュール管理（リハビリ、内服、インスリン時間）が出来ていなかった。そのためメモ帳とホワイトボードを活用した介入、振り返りを行った。これによりA氏自身が記憶できている事と出来ていない事について確認し、認識する機会となった。次に内服薬、インスリン注射の自己管理の指導を開始した。当初は内服忘れもあったが、環境調整、振り返りを行うことで飲み忘れがみられなくなった。インスリン注射の手技は、入院前より自己注射を行っていた事もあり短期間で自立した。インスリンの単位合わせは、口頭で単位を伝え、本人が合わせる方法で問題無く実施できた。退院に向けて課題はインスリン注射時間の管理、インスリン単位調整、内服薬の準備確認がA氏自身でできるかであった。インスリン注射時間の管理確認は問題なかったが、インスリン単位調整、内服薬の1週間準備確認は達成に至らなかったため、継続支援を訪問看護に繋いだ。退院時の行動・記憶・注意障害を示す測定値はFIM運動項目86点・認知項目28点、TMT-J（51秒）、MMSE/HDS-R（26/25）、S-PA検査では、有関係対語：記銘想起可能と全般的に改善を認めた。

【考察】

記憶障害、注意障害のあるA氏の新たな行動パターン獲得への支援は、回復期における記憶障害への介入に支持されている「外的補助手段を使いこなす訓練」、「誤りをさせない学習法」、「能動的参加」を基にした介入が有効であることを確認できた。メモやスケジュール表活用による日課の理解と行動を意識化できるようになったことをきっかけに文字で記憶を補完する視覚情報を活用する成功体験を重ね、行動の獲得に繋げていた。三村らは、「記憶に問題を持つ高次脳機能障害者の患者は自力操作を確立するまで通常以上の反復が必要であるが記憶回路が形成され確実に習得するとその後は安定する」と述べている。A氏においても服薬管理やインスリン注射手技、手順、特に指示量を確認する手順習得までには時間を要したが、本人の理解レベルに合わせ時間をかけた反復指導を行う事により、口頭指示から声かけ、見守りへと移行し自己管理に到達できたと考える。

<参考文献の記載方法>

1. HataJ,TmaizakiY,KiyoharaY,KatoI,kuboM,TanakaK.OkuboK,NakamuraH,OishiY,IbayashiS,IidaM,Ten year recurrence after first ever stroke in a Japanese community:the Hisayama study,J Neurol Neurosurg Psychiatry,2005,76,368-372.
- 2.三村将,小松伸一：記憶障害のリハビリテーションのあり方.高次機能障害研究 2003：23：181-190

院内医療統計

入退院患者状況

作成日:4月20日

(集計対象期間:2021年4月1日～2022年3月31日)

1日平均在院患者数

	対象	対象割合	対象外	対象外割合	合計	前月
2F	428.9	96.0%	18.1	4.0%	447.0	446.1
3F	604.2	97.9%	12.9	2.1%	617.1	617.6
4F	580.5	95.7%	26.1	4.3%	606.6	607.5
5F	606.9	96.7%	20.8	3.3%	627.7	629.8
合計	2220.5	96.6%	77.9	3.4%	2298.4	2301.0
利用率	159.4%		5.6%		165.0%	165.2%

回復期リハ病棟実績(Ⅰ)

区分			2021.4/1～2022.3/31(単月)		
			実人数	該当数	実績
4F ～ 7F 合計	重症者の割合	10点以上(30%)	994	419	42.2%
		A項目(10%)	-	-	-
	在宅復帰率(70%)		966	871	90.2%
	重症者改善率(4点以上)		405	295	72.8%
	回復期リハ対象者		69856	67204	96.2%

病棟別・在宅復帰率

(2021年4～2022年3月の実績:退院患者: 1,084 名)

	自宅	在宅所・グループホーム等	施設	病院	その他(対象外・死亡等)	総計	算定除外数	在宅復帰率(%)	在宅復帰率回復期病棟用(%)
2階病棟	191	27	6	23	19	266	39	82.0%	96.0%
3階病棟	195	43	20	31	5	294	30	81.0%	90.5%
4階病棟	187	27	17	31	10	272	26	78.7%	86.3%
5階病棟	174	27	17	26	8	252	23	79.8%	88.2%
合計	747	124	60	111	42	1,084	118	80.4%	90.2%

*「退院患者数」は、当病院施設外への退院数とし、転入数・転出数は含めない。

〔病棟別〕在院日数状況表

	入院数(転入数)	退院数(転出数)	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
2階病棟	266	267	13,600	37.26	0.73	0.73	51.03
3階病棟	297	298	18774	51.44	0.81	0.82	63.11
4階病棟	277	274	18447	50.54	0.76	0.75	66.96
5階病棟	253	257	19089	52.30	0.69	0.70	74.86
合計	1093	1096	69,910	191.53	2.99	3.00	63.87

*「入院数」「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

* 平均在院日数(数値は、在院患者様すべて含んだ計算になっています。)

〔診療科別〕在院日数状況表 (実績)

	入院数	退院数	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
内科系	218	201	14,692	40.25	0.60	0.55	70.13
整形外科	363	365	16418	44.98	0.99	1.00	45.10
リハビリ科	512	530	38800	106.30	1.40	1.45	74.47
合計	1093	1096	69,910	191.53	2.99	3.00	63.87

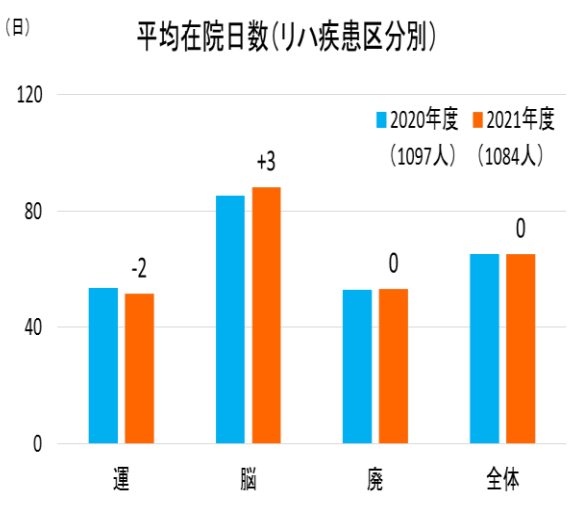
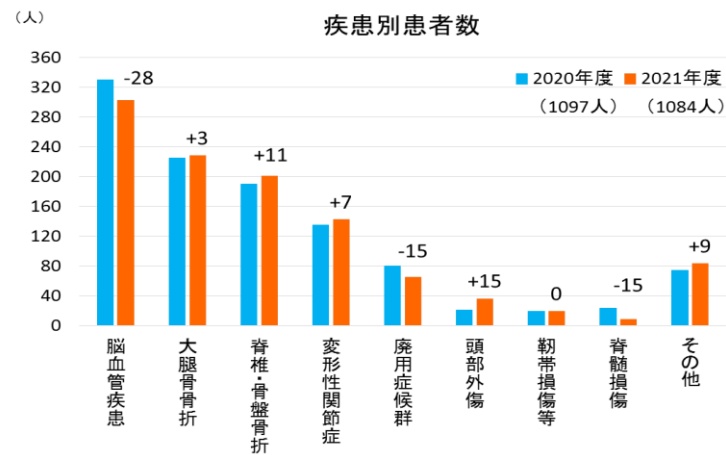
*〔診療科別〕在院日数状況表の「入院数」「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

〔リハビリ疾患別〕在院日数状況表 (実績)

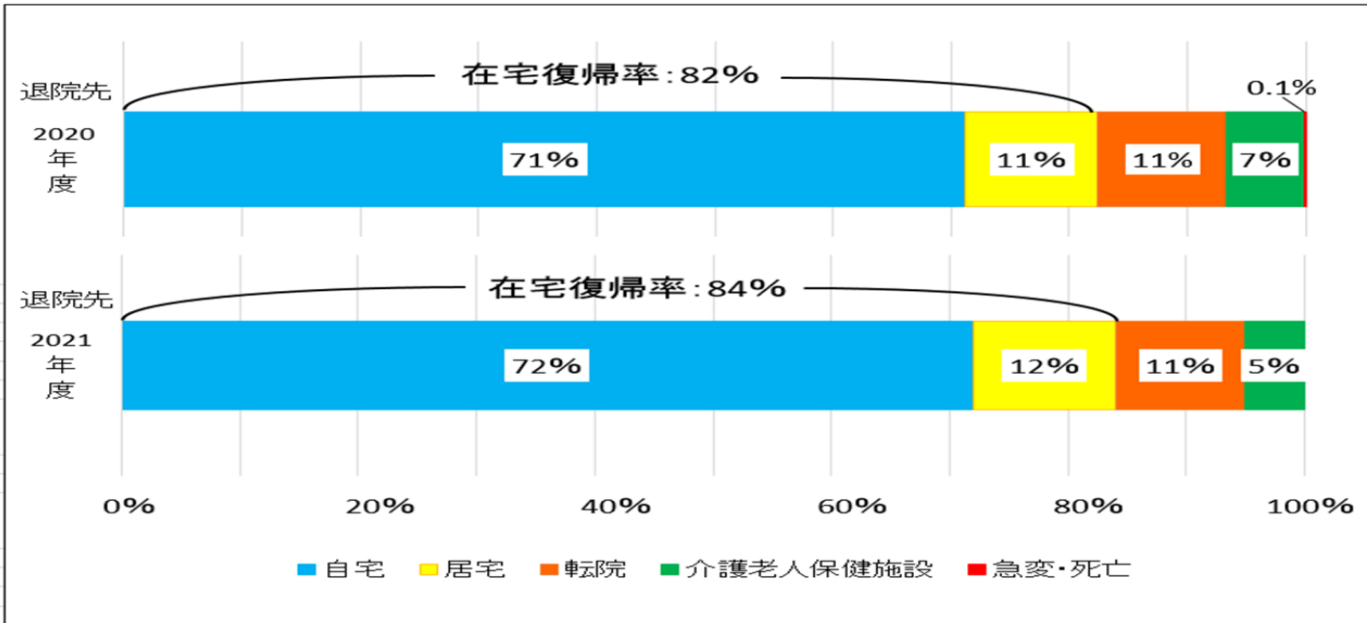
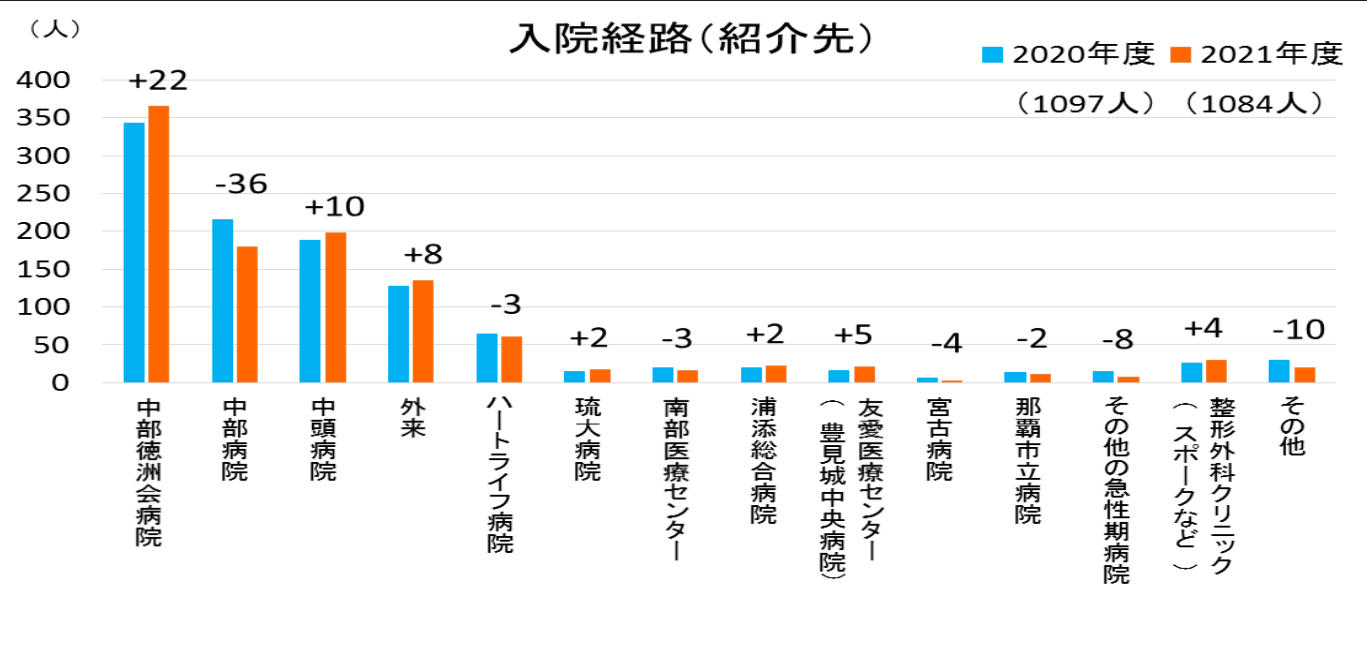
	入院数	退院数	在院延べ数	1日平均在院数	1日平均入院数	1日平均退院数	平均在院日数
脳血管	412	402	35,756	97.96	1.13	1.10	87.85
運動器	618	628	30345	83.14	1.69	1.72	48.71
呼吸器	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
麻痺	63	66	3809	10.44	0.17	0.18	59.05
リハ算定なし	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	1093	1096	69,910	191.53	2.99	3.00	63.87

*〔リハビリ疾患別〕在院日数状況表の「入院数」「退院数」には、転入数・転出数を含みます。

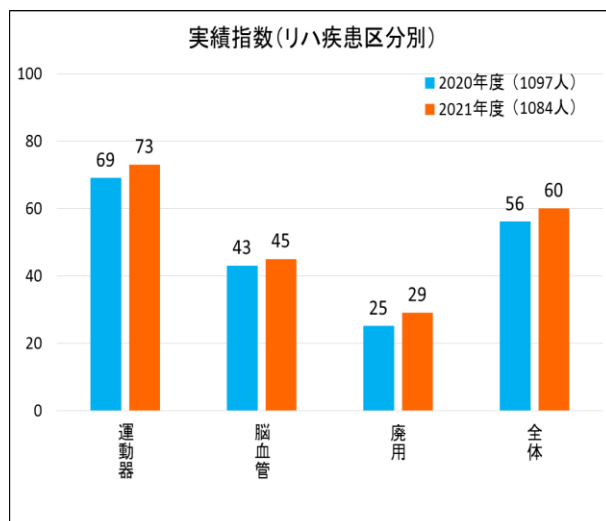
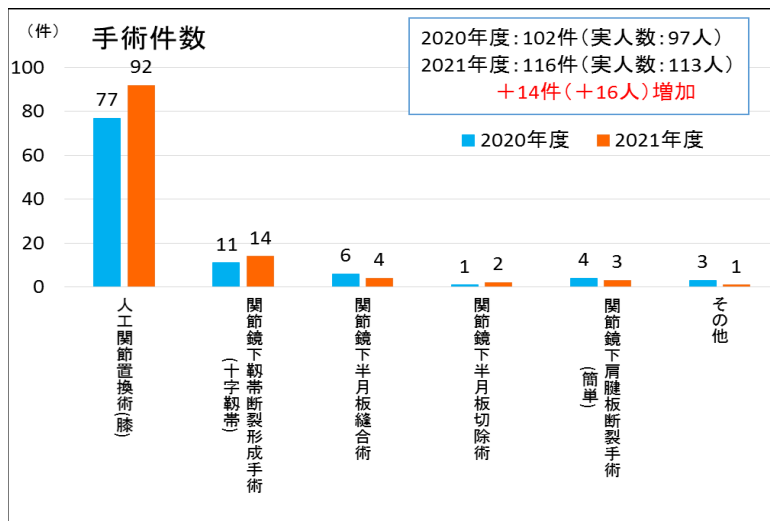
2021年度 退院患者の統計実績（2020年度との比較）



※脳血管疾患の内訳: 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、水頭症(くも膜下出血・脳室内出血)
※靱帯損傷の内訳: 膝前十字靱帯損傷、肩関節断裂
※頭部外傷の内訳: 脳挫傷、急性・慢性硬膜下血腫、外傷後水頭症、外傷性くも膜下出血
※その他の内訳: 腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、胸椎黄色靱帯骨化症、ギラン・バレー症候群など



※居宅系施設: 有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症高齢者グループホームなど
※本集計は全退院患者を集計対象とした在宅復帰率となります



※2020年度(2020/4/1～2021/3/31)、2021年度(2021/4/1～2022/3/31)の手術実施者対象
(退院患者数ではありません)

2021年度疾患別患者数 当院に多い上位10疾患

期間: 2021/4/1～2022/3/31

入院(全1,084件)

大分類別

ICD分類	人数	割合
S 損傷	485	44.7%
I 循環器系	302	27.9%
M 筋骨格系	256	23.6%
G 神経系	22	2.0%
T 損傷	12	1.1%
D 新生物	3	0.3%
A 感染症	1	0.1%
B 感染症	1	0.1%
E 内分泌・代謝疾患	1	0.1%
Q 先天奇形	1	0.1%
総計	1,084	100.0%

中分類別

ICD	代表疾患	集計	割合
S72	大腿骨頸部骨折の術後、大腿骨転子部骨折の術後	220	20%
I63	アテローム血栓性脳梗塞、脳梗塞、心原性脳塞栓症	174	16%
S32	腰椎圧迫骨折、骨盤骨折	138	13%
M17	変形性膝関節症の術後	120	11%
I61	被殻出血、視床出血、小脳出血、脳皮質下出血	104	10%
M62	廃用症候群	65	6%
S22	胸椎圧迫骨折	52	5%
S06	脳挫傷	28	3%
M16	変形性股関節症の術後	22	2%
M48	腰部脊柱管狭窄症、胸椎黄色靱帯骨化症	21	2%
総計		1,084	100%

外来(全50,909件)

実患者数4,695人

大分類別

ICD分類	人数	割合
M 筋骨格系	16,420	32%
F 精神及び行動の障害	14,066	28%
I 循環器系	7,465	15%
S 損傷	5,053	10%
G 神経系	3,118	6%
E 内分泌	2,105	4%
J 呼吸器系	677	1%
K 消化器系	559	1%
T 損傷	341	1%
その他(B感染症・R症状など)	1,105	2%
総計	50,909	100%

中分類別

ICD	代表疾患	人数	割合
M17	変形性膝関節症	5,433	11%
F20	統合失調症	3,658	7%
I10	高血圧症	3,331	7%
M47	変形性腰椎症、脊椎症	2,131	4%
F32	うつ病	1,875	4%
I61	脳出血	1,611	3%
M81	骨粗鬆症	1,454	3%
F10	アルコール依存症	1,349	3%
I63	脳梗塞	1,336	3%
F90	注意欠陥多動障害	1,301	3%
総計		50,909	100%

2020年度・2021年度の疾病大分類統計（退院患者）

疾病分類		2020年度(人)	2021年度(人)	比較人数
総数		1097	1084	-13
Ⅰ 感染症及び寄生虫症（A00-B99）		0	2	2
Ⅱ 新生物（C00-D48）		1	3	2
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患（E00-E90）		0	1	1
Ⅵ 神経系の疾患（G00-G99）		33	16	-17
Ⅸ 循環器系の疾患（I00-I99）		325	308	-17
	脳梗塞（I63）	159	174	15
	脳出血（I61）	141	103	-38
	くも膜下出血（I60）	15	11	-4
	その他	10	20	10
ⅩⅠ 消化器系の疾患（K00-K93）		0	0	0
ⅩⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患（L00-L99）		0	0	0
ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患（M00-M99）		250	256	6
	廃用症候群（M62）	80	65	-15
	変形性膝関節症（M17）	118	120	2
	変形性股関節症（M16）	16	22	6
	その他の脊椎障害（M48）	13	21	8
	頸髄症性脊髄症（M47）	9	11	2
	その他	14	17	3
ⅩⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常（Q00-Q99）		2	1	-1
ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響（S00-T98）		487	497	10
	大腿骨骨折（S72）	221	219	-2
	腰椎及び骨盤の骨折（S32）	123	138	15
	肋骨及び胸椎骨折（S22）	59	52	-7
	膝関節及び靱帯の脱臼（S83）	14	16	2
	下腿の骨折（S82）	13	16	3
	頭部外傷（S06）	15	28	13
	脊髄損傷 （S14.1、S24.1、S34.1、T09.3）	20	8	-12
	その他	22	20	-2

2021年(令和3年) 年表

1月4日	タピック泡瀬地区年始式2021
2月1日	本館グランドオープン（玉城病院 移転）
3月1～4日	リハビリテーションツーリズム モデル実証 （令和2年度地域の医療・観光を活用した外国人受入れ推進のための調査・展開事業 （厚生労働省））
3月12日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第29回研修会（当院事務局）
3月13日	中途入職者研修2020
4月1日	医療法人タピック入社式2021
4月1日～23日	新人教育プログラム2021
6月25日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第30回研修会（当院事務局）
6月28日	イーストタピック研究大会2021（オンデマンド配信）
9月4日	レギュラー研修2021
9月18日	新入職中期研修2021
10月2日	沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第8回研究大会（当院事務局）
10月30日	社会人マナー研修2021
11月27日	中堅研修2021

TAPiC グループ

♥ 医療・介護

沖縄リハビリテーションセンター病院

- ・精神科デイケア・デイナイトケア
- ・高次脳デイケア
- ・沖縄百歳堂デイケアセンター
- ・訪問リハビリテーション室
- ・沖縄市地域包括支援センター西部南

介護老人保健施設 亀の里

プライム・ガーデンうるま

サービス付き高齢者向け住宅 ラ・ページブル泡瀬

デイサービスあわせ

あわせ訪問看護ステーション

- ・ねたて訪問看護室

あわせヘルパーステーション

宮里病院

- ・精神科デイケア
- ・認知症疾患医療センター

多層共同住宅 ラ・ページブル名護

ワークセンターリガーレ

名護市スポーツリハビリテーションセンター SpoRC

沖縄市地域包括支援センター西部南

🏠 文化

沖縄文化健康センターペアール沖縄・タピック

今帰仁村グスク交流センター

🌳 自然

コザ運動公園

与那城総合公園

名護中央公園

浦添大公園

中城公園

安座真海浜公園

🏊 スポーツ・健康

沖縄市立総合運動場体育施設

与那城総合公園

SpoRC フィットネスセンター

21 世紀の森体育館

名護市陸上競技場

名護市真喜屋運動広場

カンナ タラソ ラグーナ

🏫 教育

幼保連携型認定こども園 おきなわ地球こども園

企業主導型保育所 タピックちきゅう保育園

ちばな学童クラブ

🏖️ 観光

東南植物楽園

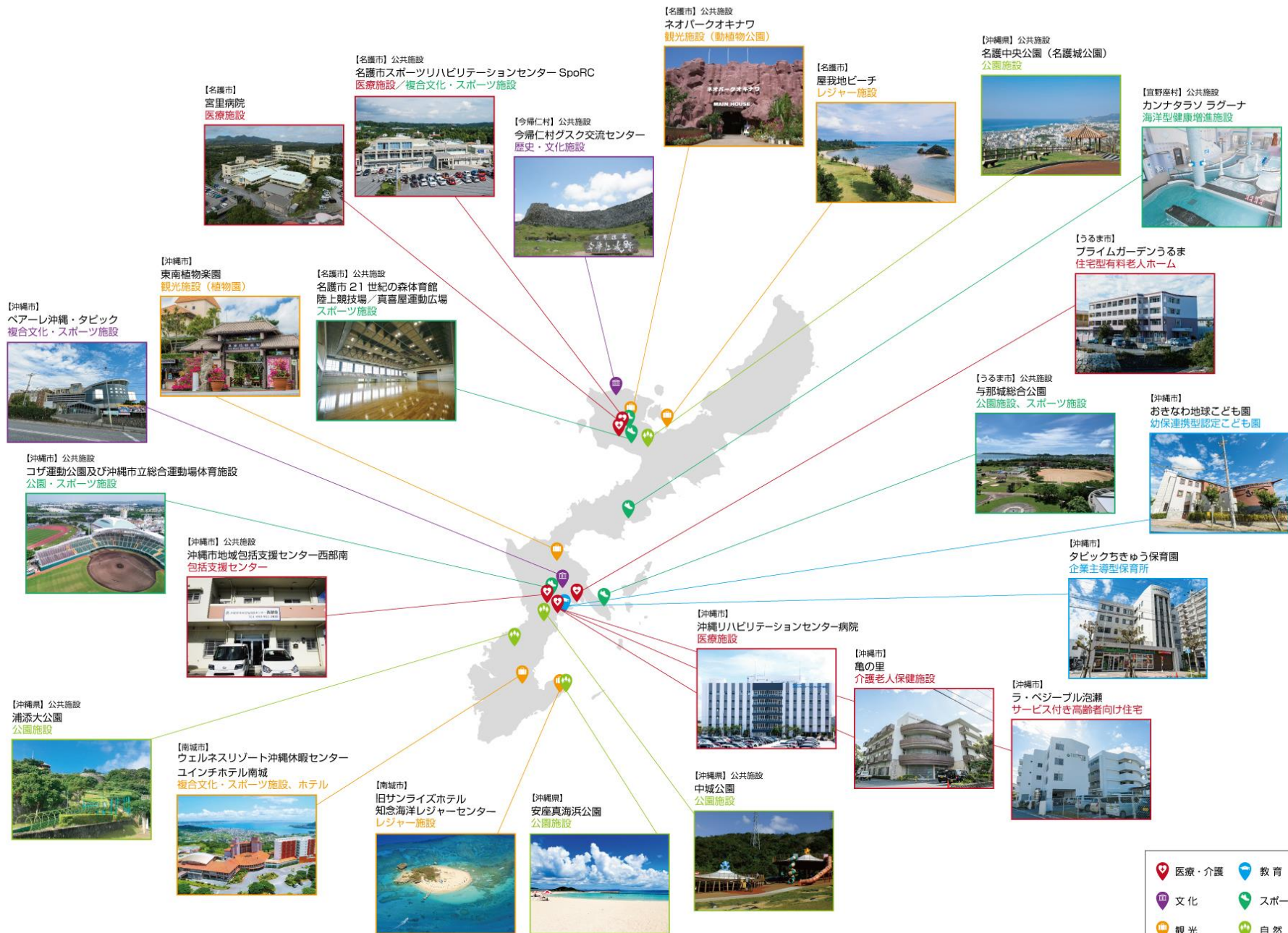
ウェルネスリゾート沖縄休暇センター ユインチホテル南城

ネオパークオキナワ

屋我地ビーチ

知念海洋レジャーセンター





- 医療・介護
- 教育
- 文化
- スポーツ・健康
- 観光
- 自然

メディア関連記事

(医療医学・観光・その他)

メディア関連記事は冊子にて掲載しております。

ご希望の方に数量限定ではありますが冊子の配布 をしております。

メディア関連記事 タイトル・内容 一覧

タイトル・内容	掲載先	日付
TAPIC グループ 記事		
タピックススタジアム名護球場近く花壇に美しい花 ヒルザキルキミソウ咲く	沖縄タイムス社	2021/4/6(火)
さくらの王女施設活用 PR にタピックススタジアム	沖縄タイムス社	2021/4/29(木)
東京オリンピック県内聖火リレー	琉球新報社	2021/5/2(日)
東京パラリンピック出場県勢 2 選手へ宮里理事長より 採火託す	沖縄タイムス社	2021/8/15(日)
上与那原選手、喜納選手を激励 ～沖縄県障がい者スポーツ協会の宮里好一理事長～	琉球新報社	2021/8/23(月)
沖縄リハビリテーションセンター病院 記事		
沖縄市育英会へ寄付 沖縄リハビリテーションセンター病院(理事長 宮里好一)	広報おきなわ	1 月 号 571 号
東南植物楽園		
飼育は亜熱帯の沖縄で ～希少ゾウガメ、東南植物楽園へ寄贈～	琉球新報社	2021/4/29(木)
カピバラ牧場オープン ～東南植物楽園 親子でのんびり～	琉球新報社	2021/7/18(日)
祝 やんばる世界遺産登録(広告) TAPIC	琉球新報社	2021/7/30
東南植物楽園 特別展「琉球の植物」 ～貴重な自然、写真や図解で～	琉球新報社	2021/8/5(木)
東南植物楽園よりネオパークオキナワへパラミツ寄贈 ～世界最大果実 召し上がれ～	琉球新報社	2021/9/11(土)
東南植物楽園で沖縄南国イルミネーション点灯式 ～水面に光の彩り～	琉球新報社	2021/10/23(土)
東南植物楽園 第 9 回イルミネーションアワード イルミネーション部門 全国 3 位 県内初トップ 10 入り	琉球新報社	2021/11/6(土)
東南植物楽園 愛称「美らヤシパークオキナワ」へ決定	琉球新報社 沖縄タイムス社	2022/1/16(日)
沖縄市育英会へ寄付 東南植物楽園(園長 宮里高明)	広報おきなわ	1 月 号 571 号
おきなわブーゲンフェア開催 東南植物楽園	週刊ほーむぷらざ	2022/2/17(木)
ユインチホテル南城		
ユインチホテル南城にて最終公演 ～仲田幸子一行お笑いショー開催～	沖縄タイムス社	2021/5/14(金)
ネオパークオキナワ		
ネオパークオキナワ 6 年ぶりにワオレムールの双子が誕生	琉球新報社	2021/4/7(水)
児童作文「ゾウガメにのった」ネオパークでの体験談	琉球新報社	2021/4/7(水)
ネオパークオキナワでワオキツネザル双子誕生	沖縄タイムス社	2021/4/13(火)
ネオパークオキナワ・機関車運転手でハイタイ	琉球新報社	2021/7/7(水)
レッサーパンダ県内初お目見え ネオパークオキナワ	沖縄タイムス社	2021/7/30(金)
レッサーパンダ初展示「チャル」と「さくら」よろしくね	琉球新報社	2021/8/2(月)
ネオパークオキナワ バードショー観客笑顔	沖縄タイムス社	2021/10/3(日)
“砂漠の天使”スナネコ 来月ネオパークオキナワへ	琉球新報社	2021/11/13(土)
世界最小「スナネコ」ネオパークにて披露	沖縄タイムス社	2021/12/19(日)

タイトル・内容	掲載先	日付
レッサーパンダ県内初展示飼育 ネオパークオキナワ	沖縄タイムス社	2021/12/21(火)
児童作文「レッツゴーネオパーク」	琉球新報社	2022/2/5(土)
やんばる盆栽展始まる	沖縄タイムス社	2022/2/26(土)
ネオパークオキナワとなごアグリパーク ～入口モニュメント新設～	沖縄タイムス社	2022/4/19(火)

編集後記

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院
教育研修局 作業療法士 マネージャー
和宇慶亮士

2020 年に引き続き 2021 年も、全世界にとって、新型コロナウイルス（COVID-19）との共存、そしてニューノーマル（新しい生活様式）への適応を通して、確実に成長した 1 年であったと思います。ニューノーマルはオンライン研修やテレワークなどの DX（デジタルトランスフォーメーション）推進、事業継続性強化などへの対応、マスク着用による目元の笑いなど表現力も含め、自身の思考や行動のアップデートが必須となりました。

そのようなニューノーマルへの変化の中で、当法人の成果として、イーストタピック研究大会 2021（WEB）を開催することができました。急遽、感染対策により一般演題のみとなりましたが、事前に録画した発表を YouTube や電子カルテにて配信することができました。さらに先月 6 月に開催しましたイーストタピック研究大会 2022（WEB）では、発表者や参加者、運営委員がより進化し、講演及び一般演題を、質疑応答も含めリアルタイム配信することができました。院内勉強会などは例年に比較し少なくなっておりますが、WEB などを活用し、学び続ける 姿勢、『仲間とともに成長し続ける組織 The Learning TAPIC Organization』は健在です。

2020 年 7 月の新館移転に続き、2021 年 2 月に精神科病床 211 床を増床しました。これまでの回復期リハビリテーション病棟 199 床（新館）に精神科病床 211 床（本館）、そして隣接する介護老人保健施設亀の里 80 床を合わせ 490 床となります。これからも「健康と生きがいのある元気なまちづくり」に向けて、新しい総合リハビリテーション医療センターとして日々進化を続けていきます。

2022 年 1 月にリニューアルされた『ホームページ』は、皆様により深く当院の機能や役割を知っていただけるよう『外来』『入院』『地域生活支援』『病院紹介』を大項目とし、それぞれの特徴をわかりやすくお伝えできるよう『トピックス』を追加しました。採用情報ではスタッフ紹介や福利厚生を紹介もしております。これからも皆様に必要な情報をお届けしてまいりますので引き続きご覧いただけると幸いです。

最後に、本紙を作成するにあたり、現場の対応にご尽力しながらも、多くの部署、スタッフ、関係者にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

One for All, ALL for One!!



発行責任者：宮里 好一（タピック代表）

編集委員長：和宇慶 亮士（教育研修局 マネージャー 作業療法士）

編集委員：真栄城あかね（新館 5 階メディカルホールていーだ マネージャー 理学療法士）

名嘉真 卓（リハビリテーション部 サブマネージャー 作業療法士）

石川 章旗（精神科デイケア サブリーダー 作業療法士）

伊禮 翼（老人保健施設 亀の里 管理部主任 事務）

古謝 彩実（医事課 診療情報管理士）

兼久 直樹（ICT 推進室）

大城 愛梨（管理部）

池宮 沙織（管理部）

饒辺 千沙代（管理部）

久高 萌（管理部）

<表紙について>

表紙の画像はネオパークオキナワのレッサーパンダレッサー、センタークモザル、スナネコ、ベニフラミンゴの画像です。

タピックグループであるネオパークオキナワ（沖縄県名護市の動植物公園）は「人と動植物の共存を体感してほしい」という基本理念をもとに、他に類を見ない動植物公園として作られています。面積は 22 ヘクタール（東京ドーム 5 個分）で、日本最大のフライングケージ、軽便鉄道、100 種類以上の動物がおります。

タピックは「健康と生きがいのある元気なまちづくり」を地域の方々とともに創っていきます。

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集 2022



発刊日：2022 年 7 月 1 日

発行元：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

編集者：医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院 業績集 2022 作成委員会

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根二丁目 15 番 1 号

電話番号：098-982-1777 FAX 番号：098-982-1788

ホームページ：<http://www.tapic-reha.or.jp/>

